

おおくす



渋川小 HP の QR コードです



トンガ王国の特命全権大使との交流!

校長 水谷 茂樹

トンガ王国と尾張旭市とのつながり

2005年の愛知万博のときに、一市町村一国フレンドシップ事業というものがあり、愛知県内の市町村が、愛知万博の公式参加国とペアになって、外国から参加する人たちをもてなして、国際交流を図りました。

愛知万博では、お国紹介イベントが行われたり、トンガ王国の万博参加者がホームステイをしたり、愛知万博後には、市民団体の使節団がトンガ王国を訪ねて、小学校にそろばんを 280 本贈呈したりするなど、様々な交流が行われたそうです。



トンガ王国と渋川小学校とのつながり

渋川小学校の児童は、5年生が総合的な学習の時間にトンガ王国について学習し、2004年6月17日にトンガ王国勉強会を行いました。そして、2005年7月4日に、愛知万博でトンガ王国ナショナルデー公式式典を行ったときに、トンガ学習レポートをトンガ政府代表に贈呈しました。

また、2022年1月にトンガ沖海底火山噴火が発生した際に、当時の4年生（現在の6年生）の児童が、メッセージの寄せ書きを作成したり、全校で募金活動をしたりして、トンガ王国の人を応援しました。

特命全権大使が渋川小学校に来校

このようなつながりがあり、以前からトンガ王国の方が、尾張旭市や渋川小学校に訪問できる機会を検討されており、今回、2024年2月2日に実現することができました。トンガ大使館からは、特命全権大使のT・スカ・マンガシさんと通訳の方が、市からは柴田市長をはじめ担当課の関係者の方が来校され、6年生の児童と交流をしていただきました。



スカ大使は、児童に少しでも理解してもらいたいという気持ちで、日本語のあいさつをたくさん練習されたそうです。トンガ王国のことやこれまでのお礼を伝えたくて訪問されたこと等をお話していただき、児童は笑ったりうなずいたりしながら聞いていました。

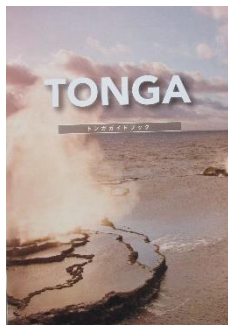


その後、6年生の児童から大使への質問タイムを行い、交流を深めることができました。そして、児童からお礼の気持ちを込めて、「群青」の合唱をプレゼントしたときには、児童の合唱を聴いて、スカ大使も柴田市長も、同行されたたくさんの方も、涙を拭きながら聴いてくださいました。（裏面へ →）

校長室で最後お話をしたときに、訪問されたみなさんが本当に喜んでみえて、今後も尾張旭市や渋川小学校との交流を深めていきたいと話されました。そして、スカ大使から、トンガ王国の伝統文化である民芸品とトンガガイドマップをいただきました。その絵には、2頭の鯨(写真左)が元気に泳いでおり、トンガ王国では鯨はあたたかい血が流れている動物で、大海原でいろいろなことを経験しながら元気に成長していくと考えられており、渋川小学校の児童のみなさんにも、これからいろいろな経験をしながら、夢や希望をも



って人生を楽しく歩んで欲しいという願いを込めて、スカ大使はこの絵を選ばれたそうです。



今回の経験は、6年生の児童にとって卒業前の貴重な経験になったと思います。何が起こるか予測のできない時代の中で、様々な国の人や文化と関わり、様々な人を大切に思いながら、夢や希望をもって力強く生きていってほしいと思います。また、そういう力をこれからも渋川小学校では育てていきたいと思っています。

大谷翔平選手の思い・グローブの寄贈



渋川小学校にも大谷翔平選手からグローブが寄贈され、1月29日(月)の学校集会で児童に紹介したのは、学校のHPでお伝えしました。

その後、6年生から各教室を順に回していき、児童は手にはめてグローブの感触を味わっていました。



「思ったより軽い」「やわらかい」「ここにサインがある」などと、気付いたことを話しながら楽しんでいる様子が見られました。そのうちに、チャンスがあれば、運動場でキャッチボールをする機会をもちたいと思っています。

大谷選手にとって、野球は充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだそうで、添えられた手紙には、「私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるた

めのシンボルとなることを望んでいます」と書かれていました。

大谷選手が野球というスポーツを通して成長されたように、渋川小学校の児童にも、いろいろなことに興味・関心をもって挑戦し、成長してほしいと願っています。

被災地への募金活動 児童が呼びかけ実施

1月30日(火)~2月1日(木)にかけて、被災された方を応援するために、児童会で募金活動を行いました。たくさんの方のご協力、本当にありがとうございました。

2月6日(火)に児童会役員と担当教諭で、市役所の危機管理課の方に集まったお金(45874円)を届けました。

尾張旭市と輪島市は、大規模災害に関して協定を結んでいるので、市で集まったお金は、被災地への支援金として直接輪島市に届けられ、復興に向け活用していただきます。

